

タイトル 研究発表

学校名 神奈川県立平塚湘風高等学校

研究テーマ 『共に学び 寄り添って 命を守ろう』

《平塚湘風高等学校とは》

本校は新校設置計画により、平成20年に県立五領ヶ台高等学校と県立神田高等学校が統合され、元神田高校の敷地に、単位制による全日制課程、2学期制の学校として新たに設置されました。今年度19期生を迎えました。最寄り駅のJR平塚駅もしくは小田急本厚木駅からバスで25分圏内に位置していますが、平塚市周辺からの自転車通学者が45%を占めています。ウェイトリフティング・パワーリフティング部の活躍は知られるところとなっています。他部活動も活発化し、PTAからも部活動補助費として50万程の予算立てをしています。また、学校行事も充実し、体育祭、文化祭、球技大会など1年を通して生徒の元気な姿が見られます。

《本校PTA活動》

コロナ禍以降、PTA活動は縮小傾向にあり、本校もその例に漏れることはありません。しかし、3年間運営委員を務めていただいた方の中には「残ってお手伝いしたい」という声もあります。このように「PTA愛」にあふれた活動を誇りに感じています。昨年度と今年度の2カ年の重点取組事項は「Ⅰ 共に学び、開かれたPTA活動」「Ⅱ 寄り添って、大切な命を守ろう」です。この方針を決定した際「持続可能なPTA活動」とは何か、そして、「PTAとして不可欠な活動」とは何かということが論点となり、そこから導き出したものが上記の重点取組であり、スローガンになっています。

Ⅰ 共に学び 開かれたPTA活動

(1) ICTの活用

- ① PTA活動用「Classroom」の開設
- ② 生徒が所持する「ChromeBook」の活用研修会
- ③ 「Classroom」内で「PTA活動発表」のシートの編集

写真の投稿の仕方について、「ChromeBook」の場合と「スマホ」の場合の両方のやり方が学べ、皆にわかりやすく、取り組みやすい講習会となりました。
〈令和6年7月 ICT研修会より〉



〈感想〉

本校教諭が講師となり、保護者からは「何年かぶりに生徒の立場に戻って、面白かった」「高校時代を思い出した」などの感想が挙がりました。

④参加率を増やすための手立てとして、運営委員会を来校（オフライン）又はGoogle Meet（オンライン）の併用開催とし、利便性を向上させ、実践研修を行いました。〈令和7年5月 運営委員会より〉

オフラインではプロジェクターで、オンラインでは画面共有で進めます



〈感想〉翌月の定例の運営委員会で実施したところ、「パソコンの前なのに緊張してしまった」「在宅・出先でも参加できるのは便利である」という声や、子育て中の教諭が赤ちゃんと一緒に参加する例もありました。

Ⅱ 寄り添って命を守ろう

(1) あいさつ運動（毎月第2週目の水曜日）

①繋がるチャンス

- ・生徒や地域と繋がるきっかけができる。

②交通安全

- ・様々な交通手段で通学する生徒への声かけ。
特に自転車通学の生徒の対応が多かった。

③学校に行こうDAY（令和7年度から）

- ・あいさつ運動実施にあわせて校内の様子を見ていただく機会を設けたいと「あいさつ運動」から広がった取り組みです。

(2) 自転車点検

神奈川県では近年、高校生の自転車事故は横ばいとなっており、減少の兆しがありません。その中で自転車自体に起因する事故（路上のパンク、ブレーキ不良など）を少しでも減らそうと「自転車点検」を行っています。

(3) 令和6年「田村地区共助・減災対策会議」

従来平塚市役所の主催の「避難所運営会議」を拡大させていただきました。

本校会議室において、「互いの役割と共助（互助）について話し合い、災害時における迅速かつ安全な避難対応につなげることを目的とし、実施しました。市役所・自治会・事務長・本校管理職・PTA会長・書記などの15名が一堂に会し、有意義な懇談がなされました。

①本校は指定避難所

自治会の防災倉庫も設置しています。生徒を最優先に考えがちですが、災害の場ではそこに居るすべてが等しく守られなければならないことや、高校生が「避難弱者」の助けとなるなど、協働・連携が大切であることも考えさせられました。

②田村地区の防災の課題

平塚市は相模川、渋田川、鈴川、金目川が相模湾に流れ下る河口付近に広がった平野です。そのため、豪雨の際「河川の氾濫」「内水による災害」が最も重大な課題となります。また地震の際の「川津波」も考えられます。以上のことについて、生徒新聞委員作成のハザードマップを囲んで、危険地帯の話をしました。自治会のリーダーの話はとても参考になりました。

(4) 防災研修

生徒と共に学ぶ機会がありました。

①DIG研修会

令和6年・7年共に、生徒新聞委員と環境委員が行う研修に参加しました。本校を中心に置いた地図を広げ、災害時の危険箇所と避難に有用な場所の確認をしました。カラーペンで各エリアを色分けし、目印のシールを貼るなどゲーム感覚で楽しく作業をすることで生徒との良い交流の場になりました。

〈令和7年7月 DIG研修会より〉



②起震車体験

「理科」の授業において、平塚市役所の支援による「起震車体験・救命救急訓練」を行いました。PTAも参加し、地震体験を行いました。

〈令和6年11月 起震車体験より〉



《研究成果》

①生徒・地域の方々・PTAの皆さんと共に学べたこと

②学校が中心となって、「地域」や「子どもたち」のために、貢献できることはまだあるということ

③「ICTのツールを活かした交流」を体験できたこと

④「スマート」なPTA活動を考え、新しい事にもチャレンジし、学ぶ喜びを発見したこと

⑤PTA活動を「持続可能」にする手がかりを模索することができたこと

私たちPTAはこれからも『共に学び、寄り添い、命を守る』活動をしていきます。